

No.	資料番号／頁	コメント内容	対応内容
1-1	1-2 P. 7, 8	WG での議論の順番について、次期軽水炉のコンセプトは既に WG フェーズ1で議論されているので、順番を逆にして、先に考慮すべき規制や制度の考え方を議論し、その後にコンセプトを議論するのはどうか。	まずは、WG フェーズ1で議論した3つの論点(コンセプト)に対して、その設計方針と設計を進める上で考慮すべき規制との関係を整理し、関連する規制基準を紹介する。次期軽水炉向けの規制と制度の考え方については第5回WGで協議予定。
1-2	1-2 P. 11, 12	社会的受容性の基本要件に対して、次期軽水炉の技術要件や設計の特長が整理されているが、これで十分か。例えば、「安全供給レジエンス」の基本要件に対して「所内単独運転」だけが記載されているが十分か。	国レベルの議論や「社会と共存する魅力的な軽水炉の展望」調査専門委員会で纏められた基本要件に対して、次期炉の基本要件、設計の特長、設計方針を詳細に整理した表を作成し、過不足ないことを確認した。
1-3	1-2 P. 11, 12	社会的受容性の基本要件についても、放射性廃棄物の処理の議論も含めた議論の網羅性と前提条件の明記が報告書をまとめる上で重要だと思うので、報告書ではそのような観点も含めた論理性に留意する必要がある。	コメント1-2で作成した表において、本WGで議論する社会的受容性の基本要件の抽出経緯及び本WGでの取扱いについて補足した。 報告書をまとめる際は、左記の観点にも留意して具体的な説明を記載することとする。
1-4	1-2 P. 16, 17	再エネとの共存は重要な要件だと思うので、本WGで議論の対象にはしないことについてもう少し具体的な説明が必要である。本WGで議論しなくても報告書では具体的に記載した方がよい。	コメント1-2で作成した表において、再エネとの共存に係る本WGでの取扱いについて補足した。 本WGで議論の対象としない理由について具体的な説明を第1回WG資料に追加した。 また、報告書には具体的な説明を記載することとする。
1-5	1-2 P. 24	新知見や海外の事例などを取り入れるため、今の新規制基準が必ずしも最終形とは限らないので、将来の拡張性に備え、余地を残しておくという視点があっても良いと思う。	将来の拡張性については、技術要件の「保守性・運用性」の「将来の改造やバックフィットへの柔軟性」として挙げており、報告書には具体的な説明を記載することとする。